

。○。○。○。

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2015. 12. 14

下水道機構の『新技術情報』 第215号

(公財) 日本下水道新技術機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。

暖冬の影響なのか都内はまだ紅葉が見られます。例年だとこの時期は落葉し冬景色なのですが、今年は長く紅葉が楽しめます。個人的には暖かい方が好きですが、各地のスキー場では、深刻な雪不足となっているようです。

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第215号をお届けします。

業務に、Tea Breakにどうぞご活用ください。

#### ◆◆◆トピックス◆◆◆

##### ■インフォメーション

- ・12/1(火)に新技術現場研修会を開催しました

##### ■機構の動き

- ・今週は、12/16(水)に第5 審査証明委員会、12/18(金)に第4 審査証明委員会を開催します

##### ■Tea Break

- ・バルト三国について (資源循環研究部 T. I さんからの投稿です)

##### ■まる子のゆいまーる♪

- ・今日のゆいまーるは、当機構研究員からマンホールふたの写真の投稿です！

##### ■国からの情報

- ・12/11 付下水道ホットインフォメーション

。○。○。

インフォメーション (最新の話です)

。○。○。

##### ●12/1(火)に新技術現場研修会を開催しました

第64回新技術現場研修会を12月1日(火)に開催しました。

今回の視察場所は、横浜市水道局川井浄水場「セラロッカ」です。

川井浄水場は、山梨県の道志村に端を発する道志川を水源とする横浜市内で最も古

い浄水場で、山手の外国人居留地への給水をはじめとして明治 34 年に創設されました。その後、施設の老朽化や耐震性の問題から全面的な改修が必要となり、平成 21 年度より再整備が進められ、「セラロック」の名前の由来となったセラミック製の膜モジュールを使用した日本最大規模の膜ろ過施設として平成 26 年 4 月に完成しました。

川井浄水場の特徴としては、日本で初めて浄水場施設全体の更新と運営・管理を P F I 方式で実施されています。また、取水施設からの高低差の自然エネルギーを最大限活用し、水源から膜ろ過施設の浄水まで電力を使わずに運転が可能であることや大規模膜ろ過の導入により、従来の急速ろ過方式と比較し大幅な電力量、薬品使用量の削減が可能な環境にやさしい浄水場となっています。これらの取り組みが評価され、第 1 回水道イノベーション賞（平成 26 年 10 月）、第 17 回日本水大賞厚生労働大臣賞（平成 27 年 7 月）を受賞されています。

今回は水道施設に関わる現場研修会でしたが、川井浄水場における事業スキームや環境に関する取り組みなどは下水道事業においても大変参考になるものでした。研修会の開催にあたり、横浜市水道局様、ウォーターネクスト横浜株式会社様にご協力をいただきました。ありがとうございました。

---

。○。

機構の動き （機構の行事予定です）

。○。

●平成 27 年 12 月 16 日(水) 13:30~17:00

行 事：平成 27 年度 第 3 回第 5 審査証明委員会

場 所：機構 8 階 特別会議室

案 件：平成 27 年度 建設技術審査証明（下水道技術）の各技術の報告書の審議

●平成 27 年 12 月 18 日(水) 13:00~17:30

行 事：平成 27 年度 第 3 回第 4 審査証明委員会

場 所：機構 8 階 特別会議室

案 件：平成 27 年度 建設技術審査証明（下水道技術）の各技術の報告書の審議

○平成 28 年 1 月 14 日(木) 17:00~18:00

行 事：第 344 回技術サロン

場 所：機構 8 階 中会議室

ゲスト：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課

町村下水道対策官 白崎 亮 氏

テーマ：『平成 28 年度下水道事業予算案について』

※お申し込みはこちら

⇒ <http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon-form>

---

。○。

Tea Break （機構職員の感じるまま）

。○。

●バルト三国について（資源循環研究部 T. I さんからの投稿です）

今年の夏、バルト三国を観光する機会がありましたので、少しご紹介したいと思います。

北から南へエストニア、ラトビア、リトアニアと並んでいて、いずれもバルト海に面しています。歴史上に顔を出すのは、12世紀にキリスト教の布教を名目にこの地を征服したドイツ騎士団からになります。ヨーロッパの辺境の地であったわけです。ロシア革命後に独立を果たしましたが、第二次大戦後はソ連邦に併合されました。再び独立したのはベルリンの壁崩壊後の1991年になります。EUに加盟し、現在は通貨もユーロとなっています。

バルト三国から何を思い浮かべますか？日本のシンドラマーと呼ばれた杉原千畝さんがいたリトアニアの自宅兼領事館は、今でもカウナスに記念館として残っています。杉原千畝さんのことは、唐沢寿明主演で上映中ですので興味のある方は是非ご覧ください。歌の好きな方は、加藤登紀子さんが歌っている「百万本のバラ」をご存じと思いますが、曲はラトビアの民謡をもとにしています。加藤登紀子さんは毎年のようにラトビアを訪問されているようです。また、エストニアには、5年に1回タリンの歌の原に3万人が集まる歌と踊りの祭典があります。独立前の1989年には約30万人が集まったといわれています。

。○。

まる子のゆいまーる（皆様との交流の場です）

。○。

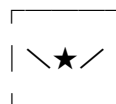
●今日のゆいまーるは、当機構研究員からマンホールふたの写真の投稿です！

詳細はこちら⇒ <http://www.jiwet.or.jp/archives/yuimaru/2015-12-14>

\*\*\*\*

皆さまからの情報提供をお待ちしております！

提供はこちらまで→



[jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

\*\*\*\*

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2015. 12. 11 付 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 本田康秀

=====

★★★★★ ラインナップ ☆☆☆☆☆

- 皇太子殿下が国連会合におけるご講演で品川シーズンテラスの取組みをご紹介【国土交通省】
- 下水汚泥焼却廃熱を高効率に活用する発電技術の実用化により汚泥処理のエネルギー消費量を抜本的に改善（導入ガイドラインの策定）【国土交通省】
- 「下水道まるごと e-ラーニング」の拡充について【国土交通省】
- 水中の健康関連微生物研究委員会シンポジウムの開催について【(公社) 日本水環境学会】
- 都道府県における浸水対策に係る市町村下水道職員向けの勉強会等の開催状況【国土交通省・(公社) 日本下水道協会】

○国土交通省災害・防災情報 (<http://www.mlit.go.jp/saigai/index.html>)

=====

●皇太子殿下が国連会合におけるご講演で品川シーズンテラスの取組みをご紹介【国土交通省】

11月18日、第2回国連水と災害に関する特別会合において、皇太子殿下が「人と水とのより良い関わりを求めて」と題してご講演されました。この中で、最新の科学技術を活かした取組みとして、先般皇太子同妃両殿下がご視察された品川シーズンテラスについて言及されました。具体的には、「このビルの下には広大な下水道処理施設が広がっており、雨水の一時貯留を行いながら、下水道から生み出された再生水とエネルギーをこの高層ビルで再利用し、資源の再利用と空間の高度利用を同時に図っています」と述べられております。ご講演の内容については下記ホームページでご覧になれます。

(宮内庁ホームページ)

<http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/02/koen/koen-h27az-kokuren.html>

●下水汚泥焼却廃熱を高効率に活用する発電技術の実用化により汚泥処理のエネルギー消費量を抜本的に改善（導入ガイドラインの策定）【国土交通省】

国総研では、平成25年度より実規模プラントで実証してきた下水汚泥を焼却する際に発生する廃熱を活用して発電を行う技術として2技術を実用化し、今般、技術導入ガイドラインを策定しました。下水処理場における電力使用量のうち、汚泥処理における電力使用量は2割以上を占めており、加えて焼却の際に多量の補助燃料を必要とする等、汚泥処理の省エネ化の推進が課題となっています。

実証の結果、従来技術との比較では、「下水道バイオマスからの電力創造システム技術」はエネルギー消費量を 113%低減させ、「脱水・燃焼・発電を全体最適化した革新的下水汚泥エネルギー転換システム技術」はエネルギー消費量を 77%低減できることが明らかになりました。導入ガイドラインの策定を契機として、エネルギー多消費型の汚泥処理システムから脱却し、エネルギー創出プラントへの転換が進むことが期待されます。

実証成果を踏まえ策定した「下水道バイオマスからの電力創造システム導入ガイドライン（案）」及び「脱水・燃焼・発電を全体最適化した革新的下水汚泥エネルギー転換システム導入ガイドライン（案）」は、国総研ホームページ (<http://www.nilim.go.jp/lab/ecg/bdash/bdash.htm>) からダウンロードできます。

●「下水道まるごと e-ラーニング」の拡充について【国土交通省】

就職前の学生、下水道界の若手職員をはじめとして広く一般の皆様に水環境や下水道の知識、経験を web 上で学習して頂くため開設された「下水道まるごと e-ラーニング」。学習のための教材のほか、国や下水道協会、日本下水道事業団などの情報も掲載されています。12月7日には新たに、全国上下水道コンサルタント協会のページが開設され、水コン協の新ビジョン「AWS Vision 2015-2025」のナレーションバージョンが公開されました。下水道に関する幅広い学習や情報収集にぜひご活用ください。

「下水道まるごと e-ラーニング」HP  
<http://www.sewagekb.org>

●水中の健康関連微生物研究委員会シンポジウムの開催について【(公社)日本水環境学会】

12月15日(火)13:00~18:00、発明会館地下ホールにて、「水中の病原性微生物によるリスク制御への総合対策に向けて」(参加費：無料)が開催されます。水道技術研究センターの大垣眞一郎理事長による基調講演のほか、「水環境における病原微生物の管理」「水道の微生物学的安全性」「下水処理における病原微生物の制御」に関するセッションが予定されています。参加ご希望の方は、ウェブサイト (<https://jswe-watermicro2015.com/>) にて事前登録の上、ご参加ください。

●都道府県における浸水対策に係る市町村下水道職員向けの勉強会等の開催状況【国土交通省・(公社)日本下水道協会】

平成27年度から、都道府県における浸水対策に係る市町村下水道職員向けの勉強会等の枠組みを構築し、現時点で35都道府県において開催済みとなっております。今後とも引き続き、ご協力くださいますようお願いいたします。

---

発行元： 公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部  
〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F  
TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ： <http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えたい情報をお持ちの方はこちらから → [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○ニュースレターはこちらから

→ <http://www.jiwet.or.jp/newsletter/20151030/>

---